

子どもがワクワクする祭典

11月3日（木）、子どもの祭典（町子ども会育成連絡協議会主催）が鶴遊館や体育センター、公民館を会場に開催され、町内の子どもも約200人が参加しました。

イベントでは、ジュニアリーダーズクラブ「HIZURU」が企画した、「あいうえお」ビンゴなどのレクリエーションが行われ、参加した子どもたちが文字を探して会場内を駆け巡っていました。他にも、町内の子ども会による模擬店も開かれ、おでんや焼きそば、つきたてのお餅など、手作りの食べ物を子どもたちが買い求めていました。

鶴田小学校4年の関莊太くんは、「毎年おもしろいゲームがあって、友だちとたくさん遊べるので楽しいです」と話していました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。



△子ども会手作りの食べ物を買い求める子どもたち

大きく実ったリンゴを収穫

11月4日（金）、梅沢小学校の4、5年生21人が学校近くの畑でリンゴの収穫を行いました。

リンゴは児童が春から人工授粉や袋掛けなどの作業をして育ててきた「ふじ」。9月に行った「つがる」の収穫では、鳥の食害に遭い、少量しか収穫できなかったため、児童たちは、大きくたくさん実ったリンゴを嬉しそうに収穫していました。

4年生の安田優姫さんは「地面に落とさないように慎重にもぎました。どんな味になっているか早く食べてみたいです」と笑顔で話していました。

収穫したリンゴは、地域住民に販売するほか、市場にも出荷し、児童たちが競りの様子を見学する予定となっています。



△大きく赤く実ったリンゴをもぎとる児童

おいしい給食に感謝の気持ちを

地場産品を使った学校給食を通して、地域の農業や食材への関心を深めてもらう「ふるさと産品の日」給食交流会が11月16日（水）、菖蒲川小学校で開かれ、1年生から3年生19人が食材を提供する生産者や学校給食センターの調理員らと給食を囲みながら交流しました。

献立には、鶴田町産のネギやダイコン、豆腐が入ったホタテ汁、スチューベンのソースで煮た肉団子などが並び、児童たちは感謝の気持ちを込めておいしく食べていました。調理員の川内善子さんは「残さず食べてくれて嬉しいです。子どもたちがおいしく食べている姿を浮かべながら、また給食づくりに励みたいです」と話していました。



△生産者らと地元食材を使った給食を食べながら交流する児童



△決勝戦の様子。昨年に続き優勝した成田さん（右）

日本一の吸盤綱引き王を決める

11月19日（土）、ツル多はげます会主催「第2回吸盤綱引き全国大会」が町公民館で開催され、参加者の“ハゲ”しい熱戦が繰り広げられました。

大会には、町内の小学生や、はげます会創設者で98歳の竹浪正造さん、北海道や宮城県などから総勢17人が出場。吸盤を付けた額がうっ血するまで引っ張り合う熱戦や、ふさふさ頭で苦戦する児童の様子に、会場からは大きな声援や笑い声が飛んでいました。

白熱した大会を制したのは同会幹事長の成田晃生さん。成田さんは「連覇する気持ちで参加したので優勝できて良かった。来年も頑張りたいです」と述べていました。

団体・個人が全国、県表彰を報告

11月21日（月）、子ども会やまちづくり等の活動の功績が認められ、表彰を受けた団体と個人が相川町長を訪ね、受賞の喜びを報告しました。

亀田子ども会では、51年にわたり、活発な子ども会の活動を続けてきたことが認められ、全国子ども会連合会表彰を受賞。青森県子ども会専門指導員を務める工藤由緒子さん（胡桃館）には、県子ども会育成連合会・県教育委員会表彰（年少指導者部門）が贈られました。

また、地域資源を活用した商品づくりを行い、つるた街プロジェクト代表としても活躍する岡詩子さんは、県いきいき男女共同参画社会づくり表彰・女性のチャレンジ賞を受賞しました。



△（右から2人目より）亀田子ども会、工藤さん、岡さん